

演習事例 追加情報①

兄の相談時の情報を整理すると…

- 3歳児健診の時、発達遅れを指摘される。市内の小学校知的障がい特別支援学級、特別支援学校中等部、高等部を卒業。小学6年生時に療育手帳取得。
- 養護学校卒業後は市内のクリーニング店に就職し、主に仕分けや配達の手伝いをしていましたが、仕事のペースについていけなかったり、仕事をなかなか覚えられなかったりし、環境に馴染めず、数か月で徐々に行かなくなり、そのまま退職。
- 退職後は、両親も無理に就職を勧めなかったため、たまに実家の農業の手伝いをする他は、家でテレビを見たり、趣味のゲームやプラモデルを作ったりして過ごしていた。
- 両親は専業農家。父は5年前脳梗塞で倒れ、58歳で死去。母は半年程前心筋梗塞にて60歳で死去。
- 兄35歳会社員。妻33歳パート 長男小学1年生 長女2歳 の4人家族。
- 兄の住まいは、県二の住む実家から車で20分の距離の借家。
- 兄は仕事帰りや休日などの時間のある時に県二の様子を見に立ち寄り、夕食を届けたり、洗濯の援助をしている。
- 火の始末ができないので心配。小さい頃火遊びしてボヤを出したことがある。今は風呂の湯沸かしや調理はやらせていない。
- お金は、あれば好きなことに使ってしまうため、通帳は兄が預かり、一週間分の飲食代として、兄が7000円を渡し、一日1000円を目安につかうことができている。高額な計算は難しいが、日常の買い物は出来る。

今回の面接では本人の希望を伺うことができなかったため後日家庭訪問をさせていただく約束をした。

7月△日 家庭訪問をして、本人と二人で話をする。

先日面接した時とは違い、本人は緊張した様子もなく、にこやかな表情で受け答えをしてくれた。本人から聞き取りした内容は以下の通りである。

- 自分はこの家で生まれ育ち、両親との思い出がいっぱいある。
- 兄が毎日のように来てくれるのでとてもうれしい。
- 近所の人とも仲良くしており、時々民生委員も来てくれている。
- 年に1回あるお祭りは昔から行っており、毎年楽しみにしている。今年も行きたいと思っている。

- 母親が生きていたときは毎日食事を作ってくれていたが、現在はコンビニの弁当やカップラーメンなどが主であるため、だんだん飽きてきた。
- 母親が作ってくれていたようなご飯が食べたい。
- 洗濯は兄がやってくれているが、掃除や入浴は自分でやるようにと言われている。しかし、掃除は今まで母親がやってくれていたもので、どのようにすればよいのか分からないし、入浴も面倒なのでほとんどしていない。(歯磨きは昔からやっているもので、今でも毎日しているようである。)
- 買い物は兄にもらった小遣いで近所のコンビニに行き、弁当やジュースを買っている。
- 本当はプラモデルやゲームのソフトを買いたいと思っているが、兄はその分の小遣いは無駄遣いだと言って渡してくれない。
- 日中はゲームをしたり、テレビを見たりして過ごしている。独りで家にいるのはとても淋しい。
- この前、コンビニで養護学校のと時の友達に偶然会い、その友達に通っている作業所「ひまわり」(正確には就労継続支援 B 型事業所であった)のことを聞いた。椎茸の仕事やときどき行事などもあり、とても楽しそうであった。給料ももらえるみたいなので、自分もそこに行きたいと思った。
- グループホームのことは兄から聞いた。自分は今後も実家で生活をしたいと思っているが、兄にグループホームは良い所だし安心だからと言われた。兄には母親が亡くなってから、とても世話になっているのでグループホームには行きたくないと言えなかった。